

## 第5学年A組 学級活動（人権同和教育）学習指導案

1 主題名 問題が起きたときの対応  
題材名「A国 vs B国」

2 目標

○非攻撃的な自己主張（アサーティブネス）をするための方法を理解し、実践できる。

3. 本時指導の考え方

本時は、問題が起きたときに、立場の違いから感情的・対立的にならず、問題そのものを解決するための話し合いをするための、コミュニケーションの方法について学ぶ場である。

導入では、児童と児童の話のようすを、①同じ問題を対立的に話し合うか、②問題解決をめざして話し合うかの2パターンのモデルとして、VTRで提示する。問題解決により近づいていく②のような話し合いをイメージさせ、そのためのトレーニングを本時することを意識づける。

展開における、支援・指導のポイントとして、以下の点をあげる。

- ・ 状況説明シートにより、それぞれの国の立場を明確にできるように説明する。
- ・ グループをAB両国の2つに分け。それぞれの立場として①の場合の話し合いを3分間行う。その後AB国を入れ替わり、再度3分間①のような話し合いをする。ABどちらの国の立場でも①のような話し合いの場合、いくらでも相手を攻撃することができ、問題そのものは全然解決しないことを理解しやすくする。
- ・ 次にAB両国に分かれ、②の場合の話し合いをする。攻撃しないような話し方を意識するだけで、問題そのものを考えることにつながることを、話し合いの感想からおさえていく。
- ・ グループの話し合いには保護者にも入ってもらい、いろいろな意見を引き出してもらえるようにする。
- ・ 学校生活での具体的な対立場面での話し合いを練習し、アサーションの定着を図る。

【状況説明シート】（※太字は解決すべき問題点）

### **A国**

- ・ とても豊かな国で物も多く、そのかわりゴミも多い。最近ゴミ問題が深刻に。
- ・ ゴミは、以前からB国に半分捨てさせてもらっている。そのかわり、B国の仕事のない人をやったり、B国にたくさんの建物や工場をつくってあげている。
- ・ ゴミが多くなりすぎてあと**3年**で**A国のゴミ捨て場**がいっぱい。B国にもう少しゴミを捨てさせてほしいとお願いしたら、B国から「B国はゴミ捨て場ではない」と断られる。

**B 国**

- ・ とても貧しい国。仕事のない人も多く、自分たちでは建物や工場もつukれない。
- ・ A国のたくさんのゴミを引き受けているかわりに、A国でやとってもらったり、お金をもらったり、建物や工場をつくってもらっている。
- ・ 最近たくさんのゴミによる悪臭や環境破壊・公害の問題がおきる。
- ・ 先日、A国から「もう少しゴミを捨てさせてほしい」と頼まれるが、断る。

## 4 日時・場所

平成17年9月14日(火)5校時（※保護者参観）

## 5 展開

配時	学習活動	支援・指導の工夫	資料ほか
	1.今日の学習のめあてを知る。	○モデルビデオ①②を視聴し、ケンカにならない話し合いの仕方について意識づける。	モデルビデオ
	ケンカにならない話し合いの仕方を考えよう		
	2.A国とB国に分かれて、グループで話し合いをして感想を発表する。 (1)相手を攻撃するように、問題についてはあまり考えないように話し合う。 ・腹が立つ ・仲良くする気になれない ・相手にも仕返ししたくなる	○A国とB国の状況説明シートを配布し、グループを2つの国に分け、話し合う。 ○保護者にも各グループに入ってもらいいっしょに考えてもらう。 ○3分間話し合った後、感想を出す。そのあとA国B国入れ替わり、再度3分間話し合い、攻撃するような話し合いは、どのような立場でもケンカにしかつながらないことを押さえる。 ○話し合いが停滞しないように、意見を言う順番を決めて、AB両国交互に意見を出すようにする。	状況説明シート
	(2)相手を攻撃しないように、問題を解決することに主眼を置いて話し合う。 ・いっしょに問題を解決しようと思う ・協力する気になる	○5分間話し合い、(1)の話し合いとくらべてどうか、感想を言う。	

<p>3.(2)の話し合いのよさをまとめ、そのやり方を練習してみる。</p>	<p>○(2)の話し合いのほうがいい理由をグループでまとめて、全体に発表する。</p> <p>○実際に(1)(2)のような話し合いが行われている例を学校の中のできごとから紹介し、(2)のやり方で話し合いをしてみる。</p>
--	---